アルク
はたらく×英

翻訳というおしごと

Is There a Future for Human Translators?

実川元子

翻訳者に
「未来」はあるか？

TRƯỜNG ĐẠI HỌC
TRUNG TÂM TH
Mã sách: 08070

138

アル

実川 元子（じつかわ・もとこ）

1954年兵庫県生まれ。上智大学外国語学部フランス語学科卒。アパレル会社勤務を経て、1991年に翻訳者／ライターとして独立。主な翻訳書に『PK―最も簡単なはずのゴールはなぜ決まらないのか?』（ベン・リトルトン著、カンゼン）、『孤高の守護神　ゴールキーパー進化論』（ジョナサン・ウィルソン著、白水社）、『GILT―ITとファッションで世界を変える私たちの起業ストーリー』（アレクシス・メイバンク、アレクサンドラ・ウィルキス・ウィルソン著、日経BP社）、『エキストラバージンの嘘と真実―スキャンダルにまみれたオリーブオイルの世界』（トム・ミューラー著、日経BP社）、『堕落する高級ブランド』（ダナ・トーマス著、講談社）ほか多数。
オフィシャルサイト：http://www.motoko3.com/

翻訳というおしごと

発行日	2016年12月6日（初版）
著者	実川元子
編集	株式会社アルク　英語出版編集部
校正	岩井理子
装丁・本文デザイン	早坂美香（SHURIKEN Graphic）
イラスト	タラジロウ
DTP	新井田晃彦（有限会社共同制作社）、鳴島亮介
印刷・製本	萩原印刷株式会社
発行者	平本照麿
発行所	株式会社アルク 〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-6　市ヶ谷ビル TEL：03-3556-5501　FAX：03-3556-1370 Email：csss@alc.co.jp　Website：http://www.alc.co.jp/
製品サポート	http://www.alc.co.jp/usersupport/

落丁本、乱丁本は弊社にてお取り替えいたしております。アルクお客様センター（電話：03-3556-5501　受付時間：平日9時～17時）までご相談ください。
本書の全部または一部の無断転載を禁じます。
著作権法上で認められた場合を除いて、本書からのコピーを禁じます。
定価はカバーに表示してあります。

©2016 Motoko Jitsukawa／ALC PRESS INC.
Jiro Tara
Printed in Japan.
PC：7016061
ISBN:978-4-7574-2860-7

地球人ネットワークを創る

アルクのシンボル
「地球人マーク」です。

質を向上させ、翻訳という仕事をさらにやりがいのあるものへの高める」という目標を掲げ、一九八五年に設立された。「翻訳業の発展のためには、個人翻訳者の関心事や利益を重視すべき」という基本理念のもと、会員資格は個人に限定されている。国内外の翻訳者が集まる英日・日英翻訳国際会議（ＩＪＥＴ）や国際翻訳セミナーの開催、オンラインでベテランが新人の翻訳を添削するプログラムなど、さまざまな活動を行なっている。詳細については以下のホームページを参照のこと。https://jat.org/ja/

一般社団法人　日本翻訳連盟（Japan Translation Federation　略称ＪＴＦ）

日本翻訳連盟は、実務翻訳にかかわる企業、団体、個人の会員からなる産業翻訳の業界団体として一九八一年に設立された。翻訳者が仕事を探す場、あるいは翻訳会社やソースクライアントが翻訳者を探すための場を提供しているだけでなく、ベテランの実務翻訳者によるセミナーや年に一度のＪＴＦ翻訳祭などを開催。また、自分の実力を測るための「ＪＴＦほんやく検定」の実施などの活動を通して、翻訳者と業界関係者との情報交換や交流を図っている。詳細については以下のホームページを参照のこと。http://www.jtf.jp/

「金融英語の基礎と応用　すぐに役立つ表現・文例1300」（鈴木立哉著、講談社）

金融翻訳の第一人者である著者が、一三〇〇もの文例で金融の専門用語を解説。本書の最大の魅力は、項目の分け方にある。例えば、「リスク」の大項目には、為替リスク、市場リスクといった基礎用語から、アニマルスピリット、安全通貨といった専門性の高い用語まで、三六の項目と文例が並ぶ。ところどころに噛みくだいた解説が「翻訳メモ」として入っていて、金融シロウトの私も興味深く読める。

金融に限らず、医学や法律分野でも日英両言語で専門用語の基礎知識を持っておくことは、翻訳者にとって大きな強みになる。本書のような「読める専門用語辞典」が、他分野でも欲しいところだ。

♥未来に向けて「つなぐ」

NPO法人　日本翻訳者協会（Japan Association of Translators　略称JAT）

日本翻訳者協会は、「翻訳者のための情報交換の場を設け、それによって翻訳の品

！寝転がって読む辞書・事典

「新編　英和翻訳表現辞典」（中村保男著、研究社）

辞書は引くためにある、と思っていたのだが、翻訳業に足を踏み入れて間もないころに出会ったこの辞書（当時は旧版）は、単語を一つ引くとつい読みふけってしまい、あっという間に一時間が過ぎてしまう。そのため、締め切り間際に仕事場へ持ち込むのを禁止にしたほど。その代わり、ベッドサイドに置いて眠る前に数ページずつ読んだ。どのページを開いても、新鮮な発見があって楽しい。読み物としても一級。

「新明解国語辞典」（山田忠雄、柴田武ほか編、三省堂）＊現在は第七版

国語辞典はほかにもいくつか使っているのだが、読むのが楽しいといえばやはりこれ！　読みながら思わず笑ってしまう辞書なんて、そうそうあるものではない。もちろん「引く」辞書としても優れもの。

なお、翻訳が世界の歴史に果たしてきた役割をもっと詳しく知りたい人には、**「翻訳のダイナミズム」（スコット・L・モンゴメリ著、大久保友博訳、白水社）**をお勧めしたい。第二部で取り上げられている日本、中国、インドにおける翻訳史は一読の価値あり。

「翻訳家の仕事」（岩波書店編集部編、岩波書店［岩波新書］）

文学の翻訳にたずさわる翻訳者たちが、翻訳をする喜び、苦しみ、使命感をつづったエッセイ集。中でも私が共感したのは、イタリア文学者である和田忠彦氏の言葉。「（テクストを）読んでいて響いてくる声、自分が聴き取った声を日本語で再現したい、そしてできれば再現された声に耳を傾ける読者がいて、その読者がまた別の声でそれを再現してくれたら」。翻訳という仕事の醍醐味が凝縮された一文である。

◎翻訳者である責任と誇りを心に刻む本

「翻訳とは何か―職業としての翻訳」（山岡洋一著、日外アソシエーツ）

二〇一一年に亡くなった著者の「翻訳屋になるな、翻訳の社会的責任を感じて仕事をするプロの翻訳家になれ」という主張に、身が引き締まる思いで読んだ。翻訳という仕事にはどのような社会的意義があるのか、プロの翻訳者であるためには何をすべきかを示す。翻訳者を目指す人、翻訳にかかわる人には、手に取ってもらいたい本。

「翻訳史のプロムナード」（辻由美著、みすず書房）

フランス語の翻訳者として知られる著者が、翻訳が文化と社会の発展に貢献してきた歴史を、アラブ世界とヨーロッパとの関わりからたどる。主として取り上げられているのはフランスにおける翻訳史であるが、他言語で書かれた思想や技術書を相互に翻訳することで、ヨーロッパ全体がどのように発展していったかが見えてくる。翻訳には、世界を変える力がある、ということが身にしみてわかる。

『翻訳の基本―原文どおりに日本語に』（宮脇孝雄著、研究社）

「人称」「句読点」「ふりがな」など訳文を作る上での注意点から、気をつけるべき基本単語やアメリカ英語とイギリス英語の違いまで、翻訳者なら押さえておくべき「基本中の基本」が書かれている。何よりも文章がいい。懇切丁寧だが押しつけがましくなく、しかし独特の皮肉（アイロニーと言いたいところ）が効いていて、読みながらいつもくすりと笑ってしまう。

『翻訳事典』（アルク）＊年度版

「事典」というタイトルにふさわしく、翻訳に関するあらゆる情報・知識が詰め込まれている。年度版になっているので、常に最新の翻訳業界の「今」をつかむことができ、仕事を発展させていくための手がかりが得られる。「翻訳者になりたい」と思ったとき、あるいは翻訳の仕事をいっそう充実させたいときに最初に手に取るべき一冊だろう。ちなみに、本書にご協力いただいた翻訳者の多くが、「『翻訳事典』をめくって仕事を探した」と言っていた。